

### 新しく指定・登録された文化財



顔面把手付土器

撮影 塚原 明生

令和6年2月21日付で、新たに8件の文化財が登録・指定され、区登録文化財及び区指定文化財は計94件となりました。今回初めて、天然記念物の区登録・区指定がなされました。ぜひ現地をご覧ください。

- 世田谷区指定有形文化財
  - ・堂ヶ谷戸遺跡出土の顔面把手付土器
- 世田谷区指定天然記念物
  - ・乗泉寺世田谷別院のクスノキ
  - ・慶元寺のケヤキ
  - ・玉川神社のクスノキ
- 世田谷区登録天然記念物
  - ・駒留八幡神社のクロマツ
  - ・行善寺のヒノキ
  - ・静嘉堂のギンモクセイ
  - ・松沢病院のタギョウショウ

### 世田谷区指定有形文化財(考古資料)

#### どうがやと がんめんにとって 堂ヶ谷戸遺跡出土の顔面把手付土器

寸法：高さ154mm（把手の突起まで）、最大径121mm

顔面把手付土器とは、深鉢形や樽形をした土器の口縁部に人の顔を表現した装飾が付く土器のことで、縄文時代中期の中頃（約5,000年前）に中部・関東地方を中心に分布しています。

この土器は、堂ヶ谷戸遺跡（岡本2丁目付近）の「土壙墓」とよばれるお墓から口縁部を上にした正位の状態で出土しています。土器は、土偶装飾と動物装飾を表した抽象的な文様のみられる樽形をした小形の土器で、口縁部の一部を欠損していますが、ほぼ完全な形をしています。

口縁部に顔面装飾のある把手をもち、胴下半部が「く」の字状をしています。把手は中空ではなく、目は細目でつり上がり、口は三角形状をしています。把手が土器とともにほぼ完全な形で出土したのは区内では初めてのことで、器形・時期からみても都内でも出土例は少なく、貴重な文化財です。

## 世田谷区指定天然記念物（植物）

天然記念物とは、学術上貴重で、世田谷区の自然を記念するものであり、植物では名木、巨樹、老樹などが選ばれます。今回登録・指定された天然記念物は、いずれも区の名木百選に選ばれています。ぜひ現地を訪れて、雄大でかつ美しい樹木の姿を見学してみてください。

### 乗泉寺世田谷別院のクスノキ

所在地：宮坂2-1-5

員数：1本

樹高：25m

幹周：6.15m

根元周囲：8.8m

本樹の樹高は25mで、幹周りは6mを超えており、区内でも有数の巨樹です。太い幹から分岐する大枝を広げた自然樹形は美しく、それをよく保っています。



### 慶元寺のケヤキ

所在地：喜多見4-17-1

員数：5本

樹高：27m

幹周：4.35m

根元周囲：5.6m

※樹高・幹周・根元周囲は5本のうち最大のものを記載。

慶元寺には、多数のケヤキが生育していますが、この5本は、他樹に比して樹高は秀でて高く、樹林地のスカイラインを形成しており、境内景観を特

徴づけています。

ケヤキは幹が太く、真っすぐ高く成長するため、防風や建築材等の利用のために屋敷林として植えられました。かつての喜多見地区の農村集落でも、敷地境界にケヤキを列植し屋敷林としていましたが、それらの多くは宅地化とともに伐採されていきました。境内には、現在も列植された5本のケヤキが樹形の整った巨樹となって残されており、喜多見一帯が農村であった頃を想起させる景観を形成しています。



### 玉川神社のクスノキ

所在地：等々力3-27-7

員数：1本

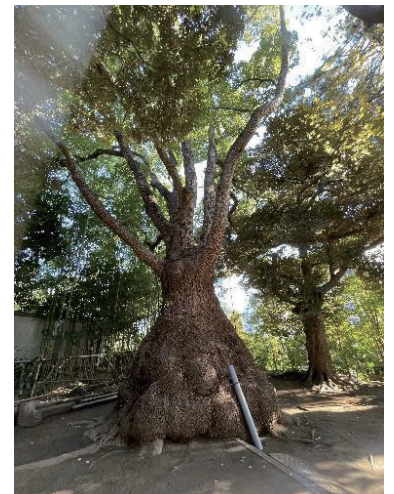
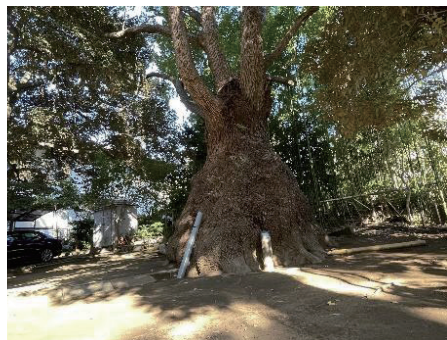
樹高：18m

幹周：6.54m

根元周囲：10.53m

本来、クスノキは寿命が長く、幹が真っすぐ高く成長しますが、本樹は、根元と太根が著しく肥大化し、本来のクスノキとは異なる特異な樹形で、クスノキとしては、区内で他に例を見ません。また、幹周りは7mに迫り、その形

が徳利のようにみえることから「とっくりグス」とも呼ばれています。

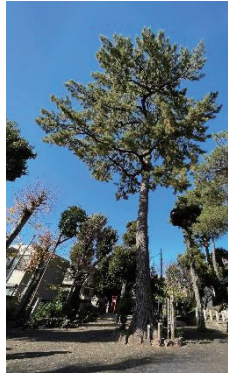




# 世田谷区登録天然記念物（植物）

## 駒留八幡神社のクロマツ

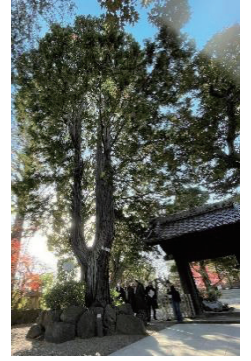
所在地：上馬5-35-3  
員数：1本  
樹高：30m  
幹周：3.9m  
根元周囲：5m



境内には、他にも樹高の高いクロマツが点在していますが、その中でも本樹は、まっすぐに伸びた雄大で整った樹形をしており、樹高は30mで、区内でも有数の巨樹です。

## 行善寺のヒノキ

所在地：瀬田1-12-23  
員数：1本  
樹高：17m  
幹周：3.05m  
根元周囲：3.25m



通常、ヒノキは幹が1本通直に伸びますが、本樹は、高さ3mほどのところで三方に分かれる特異な樹形で、区内では他に例を見ません。

## 静嘉堂のギンモクセイ

所在地：岡本2-23-1  
員数：1本  
樹高：12m  
幹周：1.5m  
根元周囲：3.1m



ギンモクセイは庭木のため、あまり大きく育つ木ではありませんが、本樹の樹高は10mを超えています。10mを超えるギンモクセイの巨樹は貴重で、枝ぶりも非常に見事です。

## 松沢病院のタギョウショウ

所在地：上北沢2-1-1  
員数：1本  
樹高：8m  
幹周：1.45m  
根元周囲：3.98m



タギョウショウは、地際から株立ちになり樹形が傘状になる品種で、通常は樹高2~5m程ですが、本樹の樹高は8mもあり、美しい樹形をしています。

# 新しく登録された国の登録有形文化財

近年、国の登録有形文化財に登録された建造物を紹介します。

## 亀井家住宅主屋

建築年：昭和5年  
構造：木造2階建、瓦葺  
所在地：松原1-31-6

玄関脇に洋館があり、中廊下式の間取りです。動線を公私で分け、各所に覗き窓を配し、要人の応接に備えた洋館付二階建和風住宅となっています。

庭園は松原一丁目日章館亀井邸市民緑地として公開されています。



## 平田家住宅主屋、門及び塀

建築年：昭和11年  
構造：木造2階建、瓦葺  
所在地：代田6-5-8

中廊下式の間取りで、北に水廻りや内玄関、南にサンルーム付応接室や座敷を配し、南庭に面しています。室内各所に銘木を多用し、洗練された和洋折衷の住宅建築となっています。ステンドグラスのギャラリーとして不定期で公開しています。詳細は、03-3468-1705（所有者）にお問い合わせください。

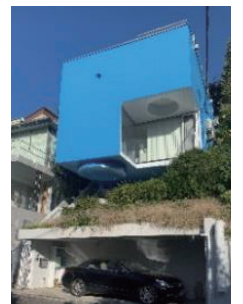


所有者撮影

## ブルーボックスハウス

建築年：昭和46年  
構造：鉄筋コンクリート造及び木造、平屋地下1階建、鉄板葺  
所在地：非公開

国分寺崖線に建つ住宅です。崖に浮かぶ青色の閉鎖的な箱内部は、上階の庭からガラスで囲った階段室に光が差し込み、明るい空間をつくっています。宮脇檀の設計による、地形を巧みに用いた独創的・革新的な作品です。



掲載した樹木や建造物は、社寺境内や個人所有地にあります。マナーを守って見学しましょう。

## ちゅうぼんどう 浄真寺三仏堂（中品堂）の修理

奥沢7丁目の九品仏浄真寺では、区指定有形文化財に指定されている三仏堂（上・中・下品堂）の耐震補強・修理工事を平成30年から順次計画し実施しています。これまでに下品堂の修理が終わり、今年度は2棟目となる中品堂の工事を行いました。

3棟全体の修理方針に倣い、主に耐震壁の挿入、鉄骨フレームの挿入、金物による補強を行いました。外構に取りついていた欄干の撤去や石段の目地補修なども行っています。

今回の補強修理は、建物を解体して組み立て直す根本修理を将来的に行うまでの応急的な処置のため、当初と考えられる部材は、大きな変更を加えないことにしています。

来年度は、上品堂の耐震補強・修理の設計を行い、再来年度に工事に入る計画です。

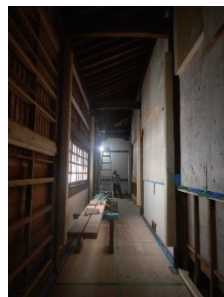
修理にあたっての調査では、梁上部には記号のような墨書きがあることが分かりました。これは、建設時に書かれたものと考えられます。大工による番付の一種と考えられますが、今後調査をしていくことで、当時の大工たちの考えていたことが明らかになるかもしれません。



耐震壁の下地

### 耐震壁の挿入

建設当初の土壁が残る箇所は建物によって異なり、それらの現状をできる限り維持するように修理をしています。下品堂は多くの箇所が、昭和56～58年の修理工事によって新しい壁に取り換えられていました。しかし中品堂は、壁の改変箇所が少なく、過去に行われた修理工事では壁の修理は少なかったことが分かりました。そのため、建設当初と考えられる土壁の箇所はそのまま残しながら、構造用合板で補強する修理となっています。



鉄骨フレームが入る前の様子

### 鉄骨フレームの挿入

鉄骨フレームについては、阿弥陀如来坐像の背面裏側にあたる外陣部分に、下品堂同様、柱通りごとに口の字型の鉄骨フレームで補強を行っています。元の柱に極力傷をつけないよう、鉄骨と柱の間に添え柱を入れています。添え柱は、丸い円柱にピッタリと合うよう加工されています。これは、光付けという大工の技術によるものです。もともと、機械加工ではない柱は微妙にねじれやゆがみがあります。そのため、添え柱の加工には非常に高度な技術が必要となります。

添え柱  
(大工による  
光付け)



### 金物による補強

虹梁と柱の接合部が外れないよう、金物を必要な箇所に取り付けて補強しています。この金物を取り付けたことで、しっかりと力を柱へと伝えられるようになっています。

## げ ぼん じょうしょう 浄真寺下品上生像の修理

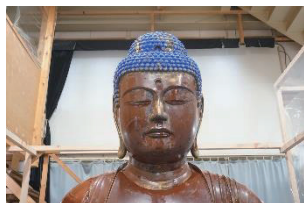


関係者で協議  
を実施  
(令和4年度)

浄真寺にある9軀の木造阿弥陀如来（九品）坐像と釈迦如来坐像は、江戸時代初期に造られた仏像で、東京都指定有形文化財に指定されています。平成26年度より、1軀につき2年の年月をかけて修理が行われています。令和6年3月に、公益財団法人美術院によって修理されていた下品上生像が浄真寺に戻ります。

修理では、材と材との間に生じた隙間や亡失部分によって不安定となっていた部分に、桧材や木屎漆（漆に木の粉を練り合わせたもの）を補足することで安定を図りました。また、近時の修理時に塗布されていた塗料を取り除き、造像当初の漆塗の浮き上がりを抑える処置を施しました。光背も彩色修理を行い、化仏の欠失部分には新たに大小の化仏を作製しました。加えて修理中に、本軀像内に墨書銘と納入紙片があることが確認されました。

令和6年4月からは、下品下生像が修理のため京都の工房へ運び出されます。



修理中の  
下品上生像  
(令和5年度)



## 等々力三号横穴墓の修復



エポキシ樹脂の注入



防カビ剤の塗布

等々力溪谷三号横穴墓は、昭和48年2月～4月にかけて発掘調査が行われ、横穴墓が完全な形を留めていることがわかりました。そのため、横穴墓を開口した状態で保存施設を設け、昭和49年2月から一般公開されています。

令和4年には、遺跡保護及び内部も見学できるように設置した扉が土の堆積により開閉できなくなっていたため、修理（交換）を行いました。今年度は、横穴墓奥壁の剥落部分の修復を実施しました。

まず、修理前の状況を確認し、写真撮影を行いました。奥壁は中央部に大きな崩落がみられ、東京軽石層の下も一部剥落していました。また、ロームが浮いて隙間があるところや、カビもみられました。次に表面をクリーニングして、浮いている部分や隙間があるところに注射器を用いてエポキシ樹脂を注入し、隙間を埋めていきます。カビのみられる箇所には、表面に防カビ剤（土壌保存処理剤）をスプレーし、刷毛などで塗って行きました。剥落していた部分は落ちていた土を水溶性樹脂と混ぜ、剥落部に補填しました。最後に、処理後の状態を確認し、記録しました。

## 旧清水邸書院の外壁塗装修理

旧清水邸書院は、現在地へ移築復原してから10年を迎えました。これを機に順次外周のお化粧直しをすることになり、傷みが激しい次の間の外壁と玄関周りの塗装を行いました。どうぞ綺麗になった旧清水邸書院にお越しく下さい。

開放日：毎週日曜・祝日・第2月曜日  
午前9時から午後4時30分  
(11月～2月は午後4時)

入館料：無料

所在地：世田谷区玉川1-16

区立二子玉川公園 帰真園内



塗装前

次の間の雨戸戸袋は直射日光や  
雨風で傷みが激しかった



塗装後

地の処理をして、復原時と同じ  
塗料で塗装した

## 文化財標識板の修理



浄光寺の新しい文化財標識板（左）

区内の文化財のうち、世田谷区と深いかわりを持ち、その地域の歴史、文化、社会の理解に欠くことができないものについて、文化財標識板（説明板）を設置しています。

現在、これまで設置してきた文化財標識板の経年劣化が進んだものについて、随時改修を進めています。

令和5年度は、計12件の既存の文化財標識板の改修を行いました。

- ①砧中学校古墳群（成城2-10）
- ②釣鐘池（祖師谷5-33）
- ③常盤塚（上馬5-30）
- ④野村胡堂旧居跡（砧8-28）
- ⑤浄光寺（世田谷1-38）
- ⑥宗円寺（上馬3-6）
- ⑦行善寺（瀬田1-12）
- ⑧念仏車（喜多見7-7）
- ⑨里程標（給田3-29）
- ⑩吉祥院（鎌田4-11）
- ⑪阿弥陀三尊種子板碑（上祖師谷6-11）
- ⑫大山道標（三軒茶屋2-13）

# 文化財ボランティア

世田谷区では、区内文化財の保護及び普及のため、文化財ボランティアの活動を推進しています。



等々力溪谷での解説

## 世田谷区文化財解説ボランティア

令和3年11月から「文化財スポットガイド」として、野毛大塚古墳と等々力溪谷について現地で解説しています。解説を聞いた方からは、「野毛大塚古墳から人骨は出たの?」「溪谷のなかに見えるあの地層は何?」といった様々な質問が寄せられます。ボランティアの皆さんは、自ら区内の遺跡の講演会に参加したり、お手製のファイルを持参して解説したりと、自身の学びを深め、活躍しています。令和6年度は、文化財の魅力と一緒に伝えてくださる第2期ボランティアを募集する予定です。

※等々力溪谷では倒木の影響による立入制限エリアがあります。区ホームページをご確認のうえ、迂回路をご利用ください。(令和6年3月31日現在)

## 世田谷代官屋敷ボランティア

大場家住宅は、(一財)大場代官屋敷保存会が所有・管理している国重要文化財です。世田谷代官屋敷ボランティアでは、主屋の公開をお手伝いしています。

令和5年9月から、不定期ですが主屋の座敷部分の公開をスタートしました。今まで土間までは入ったことはあるけれど、座敷にあがる機会がなかった、という方も多いのではないのでしょうか。令和6年4月から公開日が増える予定ですので、ぜひじっくり座敷内を見学してみてください。

他にもボランティアの皆さんは、茅葺屋根を長持ちさせるためのかまどの火入れや、傷んだ障子の張り替え等の維持管理もお手伝いしています。隣接する区立郷土資料館の展示とともに、「世田谷代官屋敷」について、訪れた皆さんの新たな発見や学びを深められるよう活動していきます。



障子の張り替え

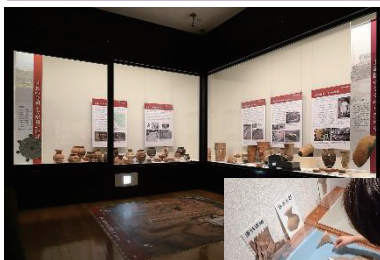
各ボランティアの活動日や中止等の詳細は、区のホームページをご覧ください。



かまどの火入れ

# 郷土資料館事業

## 常設展示リニューアル



常設展示風景



郷土資料館は設備改修工事を機に、常設展示をリニューアルしました。来館者の皆様が世田谷の歴史、文化を理解しやすいようパネルや展示資料を一新しました。

今回新たに追加した子ども向け解説パネルや、土器のパズル、昔の教科書など手に取って学ぶことができる体験コーナーは大変好評です。さらに、衣食住や生業、信仰、年中行事などの民俗分野、世田谷にゆかりのある美術品を紹介する美術のコーナーを設けました。リニューアルされた展示をぜひご覧ください。

## 重要文化財保存処理完了記念 野毛大塚古墳展

会期：令和5年8月1日(火)~10月22日(日)

記念講演会：令和5年9月24日(日)

「野毛大塚古墳の埴輪群再考」

寺田 良喜 氏 (元区文化財係学芸員)

「野毛大塚の鉄製品にみる武器の保有と副葬」

箕浦 絢 (区文化財係学芸研究員)

平成28年に国重要文化財に指定された野毛大塚古墳の出土品を、平成30年度から5か年をかけて、保存処理を行いました。

今回、郷土資料館の常設展示リニューアルに伴い、保存処理が完了した青や鉄刀・鉄鏃などの金属製品、埴輪とともに、勾玉や石製模造品等を含め300点以上の出土品を、前期と後期に分けて公開しました。

また、記念講演会とギャラリートークを開催しました。



しょうかくつきかぶと 衝角付青

## 館藏品でみる宗教美術の造形 — 仏教美術を中心に —

会期：令和5年10月28日(土)~12月28日(木)

記念講演会：

第1回 令和5年11月19日(日)

「仏画—祈りの言葉と造形」

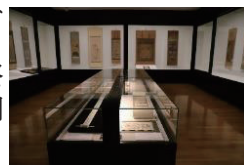
山本 聡美 氏 (早稲田大学文学学術院教授)

第2回 令和5年12月2日(土)

「仏像から時代性を読み取る」

村松 哲文 氏 (駒澤大学仏教学部教授)

この展覧会は、仏教美術を中心とした宗教美術の造形(かたち)にスポットを当てたものです。館藏品を中心に一部参考出品も含めた展示品は50点で、絵画、彫刻、印刷物、粉本(絵画資料)と、バラエティーに富んだ構成になりました。展示図録発行の他、関連企画として、記念講演会や、2回のギャラリートークを実施し、印仏作善体験コーナーも設けました。体験コーナーは人気が高く、この企画のみ会期終了後の1月16日(ポロ市最終日)まで開設期間を延長しました。





## 香道入門教室

日時：令和5年9月30日(土)

会場：旧清水邸書院

(区登録有形文化財旧清水家住宅書院)

近代の和風建築の特徴をよく残す「旧清水家住宅書院(通称:旧清水邸書院)」のなかで、日本の伝統文化のひとつである香道を体験いただきました。講師の解説のもと、2種類の香木の香りを聞いて、その違いを判じる「組香くみこう」を実施しました。組香は、古典文学や四季折々の風情等を題材に行います。今回は「菊きく合香あわせこう」と題して行いました。「素敵な建物で初めての体験が出来て楽しかったです。」と感想をいただきました。



「書院の間」で香道を体験

## 第16回 遺跡調査・研究発表会

日時：令和5年11月11日(土)

会場：教育会館「ぎんが」



埋蔵文化財に関する調査・研究の成果を発表することで、文化財保護の重要性を認識してもらうことを目的として実施しています。区文化財係学芸員による埋蔵文化財に関する基礎講座や令和4年度実施の発掘調査についての報告、国立歴史民俗博物館准教授の中村耕作先生による、「顔と蛇がついた土器」と題した、新しく指定された堂ヶ谷戸遺跡出土の顔面把手付土器(参照:1ページ目)に関する内容の特別講演を行いました。

## まがたま 勾玉づくり

日時：令和5年8月19日(土)

会場：教育会館「ぎんが」

「新・才能の芽を育てる体験学習講座」の一環として、歴史や文化を楽しく学びながら夏休み自由研究の題材にもできるように、区内の小学5・6年生を対象に実施しました。抽選により午前・午後各30人の計60人に参加いただきました。見本として会場に展示した縄文・古墳時代の勾玉を参考にしながら、軟らかい石材である滑石を削って磨いて、自分だけのオリジナル勾玉を作りました。



## 民家園事業

### 次大夫堀公園民家園企画展 「民家の柱」

会期：令和5年11月1日(水)

～令和6年1月1日(月・祝)

柱の材料や加工技術、痕跡などを取り上げ、園内主屋の柱の見どころや、古民家の歴史、建築技術について紹介しました。



文化財建造物を活用した展示解説会

### 岡本公園民家園企画展 「岡本の記憶を辿る一水と地域」

会期：令和5年7月1日(土)

～令和6年3月24日(日)

岡本地区に特徴的な湧水、河川用水、井戸、水道などに着目し、近代以降の生業や農家の暮らしを中心とする地域の移り変わりを紹介しました。



古地図や映像を使って紹介

### 民家のみかた「茅葺きの技術」

実施日：令和5年7月30日(日)

令和5年10月1日(日)

令和6年1月21日(日)

旧加藤家住宅主屋茅葺き屋根の全面葺き替えに伴い、茅葺き屋根に関する解説・実演・体験を行いました。

昭和63年に移築・復原して以来、初の全面葺き替えであったため、維持管理に関することや、全面葺き替えでしか見ることのできない屋根の造り、かつての暮らしの様子や習俗などについて紹介しました。茅葺き屋根に関する文化に触れ、文化財保護の意識を高める機会となりました。



茅葺き屋根の造りについての解説

### 民家園ボランティアの取り組み



ボランティアによる実演

民家園スタッフの一員として年間を通じて活動する藍染めの会、岡本紙漉きの会、鍛冶の会といった民家園ボランティア10団体は、再現実演をとおして民家園来園者が世田谷の郷土を学ぶ事業に取り組んでいます。令和5年度は、夏休み期間中に開催した「昔の農村体験」による子ども向け体験学習事業や、11月23日開催の「せたがや民家園まつり」における文化財に親しむ事業を実施しました。

## お知らせ

次大夫堀公園民家園の旧安藤家住宅主屋は、構造の一部に不具合があるため、来園者の安全を優先し、現在主屋内への入場見学を中止しています。耐震診断や補強の検討をただ今進めており、今後補強工事等を実施し、建物の安全性が確認された後に再開する予定です。何卒、ご理解とご協力をお願いいたします。

# 世田谷の郷土学習

郷土「せたがや」を学ぶ機会を提供し、貴重な文化財や歴史・文化を継承する次世代の子供たちを育むことを目的としています。

## 学芸員による出張授業等

原始・古代の歴史についての授業等  
(郷土歴史文化特別授業)

特別授業9校(小6)：令和5年5月～7月  
特別展示3校(小6)：令和5年5月～7月  
野外授業1校(小3)：令和5年11月

文化財係では、世田谷区内から出土した土器や石器等の実物を見て触って体験することで、当時の人々の暮らしについて考える授業や、小学校近くから出土した遺物を展示し、文化財を身近に感じることができるとの事業を行いました。

近現代以降の世田谷の歴史についての授業

郷土資料館及び民家園系の学芸員が、主に小学校3年生に向けて、区内小学校(6校)で授業を行いました。

世田谷の移り変わりや昔の暮らし、学校周辺の歴史などについての解説や、区内の農家で使われていた昔の道具の体験を行うなど、世田谷の歴史文化を学ぶ授業を実施しました。



昔の道具「箕」を使った体験授業

# せたがや歴史文化物語・なぞなぞブック

日時：令和5年11月18日(土)

「せたがや歴史文化物語」は、区内の文化財について、分かりやすくその価値を伝えることを目指す事業です。各々の文化財が持つストーリーを関連付けて紹介したり、ワークショップにより集まった質問などをもとに、「なぞなぞブック」を発行しています。今年度は、昨年度のワークショップのアイ

デアをまとめ、なぞなぞウォーキング5「国分寺崖線沿いのみどりと近代建築を巡る」を刊行しました。

そして、今回は「烏山今昔物語」と題し烏山地域の歴史をたどり、旧甲州街道、烏山寺町、北烏山九丁目屋敷林市民緑地などをめぐりました。午後はワークショップを行い、「寺町の宙水とはどういったものなのか」など、様々な意見が出ました。来年度

は、今回のワークショップをもとに、「なぞなぞブック」を作成する予定です。



## 区政PRコーナー

会期：令和5年8月21日～25日  
会場：第1庁舎1階正面階段下



世田谷区では、現在、新庁舎の建て替え工事が進んでいます。解体される世田谷区民会館(ホール部のみ保存)、第1庁舎、第2庁舎は、昭和33年から昭和42年にかけて前川國男建築設計事務所により建築されました。

今回、世田谷区民会館・区庁舎をテーマに、写真展示と解説展示を行いました。展示では、区庁舎がどのよう

な思いにより建てられ、設計に関わる建築家たちが戦後民主主義をどのように捉え、具現化させたのか、清水襄氏の写真と当時の建築雑誌や図面から読み解きました。前川國男建築設計事務所をはじめとして、建物に関わる多くの人々の思いとともに、戦後新たな時代を担ってきたこの貴重な空間を多くの方に記憶していただければと思います。

## 蒼梧記念館・光風亭動画

「SETAGAYA Qs GARDEN」(給田1-1)内に建つ「蒼梧記念館」及び「光風亭」の紹介動画を制作しました。

蒼梧記念館は第一生命株式会社創立者の矢野氏の旧宅で、設計者は日比谷第一生命館の共同設計者の一人でもある松本與作です。日本建築と西洋建築を融合させた和洋折衷様式の代表的な一例として、高く評価されています。光風亭は北陸五大船主の一つに数えられた馬場氏の別邸で、設計者は東京中央郵便局や大阪中央郵便局等の多くの庁舎建築を設計した吉田鉄郎です。全体にシンプルかつ、開放的で軽快なデザインでまとめられており、モダニズム建築として、高く評価されています。

なお、「蒼梧記念館」及び「光風亭」は東京都選定歴史的建造物に令和6年1月16日付で選定されました。世田谷デジタルミュージアムで動画を公開していますので、ぜひご覧ください。

## 世田谷デジタルミュージアム

世田谷デジタルミュージアムとは、世田谷区内の文化財や関連資料をデジタルアーカイブ化した、誰もが気軽に貴重な文化財に触れることができるサイトです。

郷土資料館や民家園で収蔵している、普段見ることのできない資料を見ることができ、歴史・文化に関する様々なコンテンツを公開しています。ぜひご覧ください。

